

第33回日本保健医療行動科学会学術大会に向けて

第33回大会長 吉岡隆之 (奈良学園大学, 大阪滋慶学園)

第33回日本保健医療行動科学会学術大会を2018年6月22日(金)～24日(日)に沖縄県那覇市の沖縄県男女共同参画センター「ていする」で開催することになりました(22日はエクスカッションのみ開催予定)。会場「ていする」は那覇空港から車で10分ほどの便利なおところにあります。

今回は、大会長の所属先ではなく、あえて会員の少ない沖縄での開催を試みることになりました。本学会の学術大会が神戸より以西で開催されるのは初めてのことであります。準備を進めるにあたり、数少ない沖縄県の本学会員で評議員も担っていたいでいる高倉実氏(琉球大学)が副大会長の任を引き受けてくださいました。高倉副大会長をはじめ沖縄県の関係各位のご協力のもと、本学会会員・役員のみなさまにご協力いただきながら、大会実行委員が中心となり準備をすすめてまいりたいと思いますので、何卒よろしくお願ひいたします。



大会のテーマは「健康でつながる調和的なライフに向けて—行動変容へのホリスティック・アプローチ—」となりました。本学会では「ホリスティック」という概念自体は、学会設立初期の頃から様々な場面で取りあげられてきましたが、学術大会のテーマに「ホリスティック」という語が含まれるのは初めてのことです。これまで「全人的」という語が学術大会のテーマに含まれることは何度かありましたが、これは、身体的、心理的、社会的、さらにはスピリチュアルな各側面を含めた包括的な意味合いとして一般的に理解されています。一方、「ホリスティック」の概念は「人間を含めて、宇宙における万物は、すべてが相互に一貫性のあるつながりをもっており、全体として動的に調和している」という「ホーリズム」の考え方に基づいています。ここでは、すべて全体、一体として統合的に捉え、全体を部分や要素に還元することはできないと考えます。このような考え方自体は、決して新しいものではなく、近代科学が台頭する以前や東洋の伝統においてもみられますが、最先端の科学(特に量子論、宇宙論、生命科学、意識研究など)がこの考え方を支持しつつあるようです。

この「ホーリズム」の考え方に基づいて行われるのが「ホリスティック・アプローチ」であり、保健、医療、看護、福祉、教育などの分野で次第にささやかれるようになってきました。そこでは、相互性や全体性が考慮され、科学的、客観的な根拠だけではなく、人間の主観性や固有の感性、人間関係や対話も尊重されます。もちろん普遍性や一般性を追求する際、科学は重要だと思いますが、個々の生身の人間に寄り添って考えるとき、決して近代科学は万能とはいえません。そろそろ科学の限界も見すえたアプローチが大切なように思います。例えば、今回の開催地である沖縄には「ユタ」をはじめ独特の伝統的精神文化があります。これも科学ではなかなか解明できないと思いますが、実際に「ユタ」信仰者をケア・支援するときに、科学的ではないところを、みてみないふりをするわけにはいかないと思います。

今回の学術大会では、上述のような「ホリスティック・アプローチ」をふまえて、調和的な健康ライフ(生命、生活、生涯)について、みなさまと一緒に「なんくるないさー(自然となるものだ)」のころもちで、精一杯討論し、また楽しくゆったりと「ゆんたく(おしゃべり)」する機会にもなれば幸いに思います。

本学会は、そもそも分野や所属、職階等の垣根を越えて、和気あいあいと楽しく交流できる雰囲気があると思いますが、沖縄の「ゆいまーる」ということと相まって、助け合いながら楽しく交流できるようになればと願っております。例えば、私は大会長ですので、もちろん大会の責任は担いますが、大会準備や大会をとおして、個々に交流するときは、一参加者として、参加者同士、対等に関わりたく願っております。是非ぜひ「・・・大会長」や「・・・先生」ではなく「・・・さん」とお声かけください。ただ、私自身がゆるくなりすぎた際は、是非遠慮なく苦言も願ひいたします。それもこの学会のよいところのように思います。

最後になりましたが、本大会会期のうち6月23日(土)は沖縄戦の組織的戦闘が終結した「慰霊の日」にあたります。意図してその日に決まったわけではありませんが、これも何かのご縁かと思ひます。当日は、大会場においても慰霊と平和に想いを馳せたいと思っております。

みなさまのご発表、ご参加を実行委員一同、楽しみにお待ちしております。また、お知り合いで、第33回学術大会に興味をもたれそうな方がおられましたら、是非とも、大会への参加や発表をお勧めいただけましたら幸いです。



中川 晶 作